

(2024年11月更新)

## がん遺伝子パネル検査 受診について

各医療機関の皆様

がん遺伝子パネル検査では、ご紹介いただいてから当院でのがんゲノム診断カンファレンスを経て、結果を患者様へお返しするまで、1ヶ月半～2ヶ月程度日数を要します。そのため検査対象の患者様は、**少なくとも3ヶ月以上の予後を見込める方**としております。

主治医が検査可能と判断され、がん遺伝子パネル検査をご希望される患者様がいらっしゃいましたら、**がんゲノム検査予約申込書、下記：1・2・5、保険情報（健康保険証の写し等）**を下記宛にFAXでお送りください。その後、お手数ですがFAXした旨のご連絡を電話でお願い致します。

### がん遺伝子パネル検査受診に必要なもののチェックリスト

- ☐ 1.診療情報提供書
- ☐ 2.がん遺伝子パネル検査診療情報提供書
- ☐ 3.CT画像、採血データ（直近のものをお願いいたします）＊1
- ☐ 4.組織検体（腫瘍含有率が20％以上のもの・血液で検査を**ご希望**の場合は不要）  
※ 検体の腫瘍含有率は診療情報提供書に必ずご記入ください
- ☐ 5.病理レポート  
※ 診断時の病理レポート、持参した検体の病理レポート
- ☐ 6.過去の遺伝学検査の報告書
- ☐ 7.血液で検査をご希望の場合は、検査結果に影響する可能性があるため、**輸血後1ヶ月以内**に当院を受診することがないようにご注意ください。また、**採血のタイミングとして、病状が進行した状態・全身療法に抵抗性を示した時が適していると言われております。レジメン変更直後に当院を受診されることがないように、受診日をご確認ください。**また、最終投与日や次治療予定日を診療情報提供書にご記入ください。上記より、**予約受診日に採血できない場合もあります。**

＊1 CD-R(CT画像)については、受診日の3～4日前までにご郵送ください。予約日が1週間以内の場合は当日にご持参いただきますようお願いいたします。

東北大学病院 地域医療連携センター（がんゲノム検査予約担当）  
TEL:022-717-8885(直通)  
FAX:022-717-8663(直通)

(2024年11月更新)

## がん遺伝子パネル検査 検体について

当院が保険診療で施行している検査は下記の5つです。

1. FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル

手術、生検検体どちらの組織検体も可能。

**病理検体準備は次ページをご参照ください。\*1**

2. OncoGuideNCC オンコパネルシステム

手術、生検検体どちらの組織検体も可能。当日採血検査も行います。

**病理検体準備は次ページをご参照ください。\*1**

3. GenMineTOP

手術、生検検体どちらの組織検体も可能。当日採血検査も行います。

**病理検体準備は次ページをご参照ください。\*1**

4. GuardantCDx360 \*2

採血のみで検査が可能（組織検体で遺伝子パネル検査が適応とならない場合に実施可）。

採血の適切なタイミングについては、下記のURLより「Guardant360® CDxがん遺伝子パネルにおけるLiquid Biops実践ガイド」をご確認ください。

<https://guardanthealthjapan.com/cms/wp-content/uploads/2024/10/JMKT-000261-web.pdf?type=nurse>

5. FoundationOne Liquid CDx がんゲノムプロファイル \*2

採血のみで検査が可能（組織検体で遺伝子パネル検査が適応とならない場合に実施可）。

**\*1 組織検体での検査をご希望される場合は、次ページを参考に組織検体を作製頂き、当院受診時に必ずご持参ください。**

**\*2 血液で検査をご希望の場合は、検査結果に影響する可能性があるため、輸血後1ヶ月以内に当院を受診することがないようにご注意ください。また、採血のタイミングとして、病状が進行した状態・全身療法に抵抗性を示した時が適していると言われていています。レジメン変更直後に当院を受診されることがないように、受診日をご確認ください。また、最終投与日や次治療予定日を診療情報提供書にご記入ください。上記より、予約受診日に採血できない場合もあります。**

主治医が検査可能と判断され、検査をご希望される患者様がいらっしゃいましたら、

別紙「がん遺伝子パネル検査 受診について」「組織検体の準備について」を参考にご対応ください。

(2024年11月更新)

## 組織検体の準備について

検体種類：FFPE 検体(薄切後 12 ヶ月以内のもの)

スライド：FFPE 検体の未染色スライド 10 枚以上と HE 染色スライド 2 枚

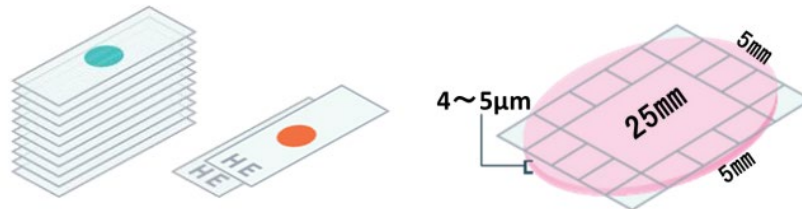
《未染色スライド作製》

切片の厚さ：4～5 $\mu$ m 切片表面の面積：25mm<sup>2</sup> 以上 腫瘍細胞割合：有核腫瘍細胞の割合 20%以上

※取り違い防止のため、各スライドに患者氏名および標本番号（病理レポートと同一の標本番号）を記載してください。

※1枚のスライドには、一つの切片のみとし、全て同一のブロックから薄切してください。

※表面積 25mm<sup>2</sup> 未満の場合(特に生検検体)、切片の合計体積が 1mm<sup>3</sup> 以上になるように、スライド枚数を追加してください。



それぞれのがん遺伝子パネル検査検体準備については、下記のリンクを参照し作製してください。

- FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル  
<https://chugai-pharm.jp/pr/npr/f1/f1t/test/speci/>
- OncoGuideNCC オンコパネルシステム  
<https://products.sysmex.co.jp/products/genetic/AK401170/inspectioninformation.html>
- GenMineTOP  
<https://www.konicaminolta.com/jp-ja/realm/genminetop/specimen/index.html>

### < その他の注意点 >

- 腫瘍細胞割合：有核腫瘍細胞の割合 20%以上（肝細胞の場合より多くの腫瘍細胞割合が必要です）。
- 未染色スライドは正電荷スライドガラス（剥離防止コートスライドガラス）を用い、伸展・乾燥のための加熱（ベーキング）は避けてください。
- 異なるブロックから作製したスライドが組み合わされている場合は、検査を受け付けることができません。

【下記の場合も検体不良で検査ができない場合があります】

- 脱灰した標本（骨転移腫瘍や原発性骨腫瘍など）
- 中性緩衝ホルマリン以外の緩衝作用のないホルマリンや酸性ホルマリンで固定された標本
- ホルマリン固定時間が長い（48 時間を超える）標本や、ホルマリン固定後 3 年以上経過している標本
- 過去に受けた放射線治療の照射範囲に含まれていた組織の標本

※新たに組織採取が必要な場合は、貴院にて御施行ください。